



宮崎公立大
山下 裕亮准教授

最大震度7を観測した熊本地方を震源とする28日の地震では、延岡市など県内3市村でも震度5弱を観測した。地震のメカニズムや県民が取るべき備えについて、宮崎公

2、3日は揺れに注意

立天地域連携・防災研究センターの山下裕亮准教授（観測地震学）に聞いた。（金井佑介）

× 今回の地震は、熊本県益城町から八代海に向けて延びる日奈久断層帯が動いた横ずれの内陸地震とみられる。日奈久断層帯は2016年4月の熊本地震で北端部分が動い

ており、今回はそれより南側の一部分がずれたと見立てている。余震が多いことが心配だ。前回の熊本地震は前

今後さらに日奈久断層帯の南側が動けば、次に強く揺れるのは県西部。地震学的にみても、大地震が起きて2、3日は同規模、もしくはそれ以上の地震が起こりやすいので特に注意してほしい。家具を固定し、配置を見直すといった、今できる備えをしておくことが大切だ。地震への対応は1秒2秒を争う。地震が来た時の具体的な避難行動を事前に考えておいてほしい。